

私のすすめるこの1冊

齊藤 恵太 (社会科学科 講師)

『東アジアの「近世」』

岸本美緒 (著)

「中世ヨーロッパのどんなところが好きですか？」
学生や他分野の先生と話していると、たまに聞かれることがある。私の専門はヨーロッパの「近世」だから、実は質問が少しずれている。では、中世に比べて聞きなれない近世とはどんな時代なのか。日本史だといつ頃なのか。そういったことを説明するときによく思い出すのが、『東アジアの「近世」』という本である。

外見だけみると本書は薄い。本というより小冊子で、82頁しかない。じっさい、歴史の教科書で有名な山川出版社の、世界史リブレット(小冊子を意味する)の一冊である。このシリーズは歴史上の様々なトピックスや人物を初学者に解説するのがねらいで、既刊本は日本史を含めると200冊以上になる。扱う題材も、例えば『主権国家体制の成立』のように「硬い」ものから、『女と男と子どもの近代』のように取っつきやすそうなものまで幅広い。何より値段が手頃なので、教材研究に便利なシリーズである。

では本書が扱う「近世」とは、いったいどんな時代なのか。日本を含む東アジアの各地では、16世紀に商品経済が急激に活発になり、社会が流動化するなかで従来の秩序が崩壊した。そして17世紀から18世紀にかけて新しい秩序がかたちづくられていく。17世紀に成立した徳川政権や中国の清朝政権は、広い視野で見れば同じ時代のリズムのなかで息づいていた。

本書の魅力の一つは、こうした東アジアの動向を、さらに世界史的な流れのなかに位置づけているところにある。そこでは当然、ヨーロッパも視野に入ってくる。特に西ヨーロッパでは、中世から続くカトリック・キリスト教世界の一体性が16世紀初頭の宗教改革によって崩れた。そして泥沼の宗教戦争を経て、やはり17世紀から18世紀にかけて新しい秩序が形成される。その意味で、ヨーロッパと東アジアはたしかに時代のリズムを共にしていた。

ユーラシア大陸の西と東の共鳴は、必ずしも偶然ではない。近世はヨーロッパとアジア、アフリカ、アメリカの関係が深まった時期で、大航海時代ともよばれる。もともと偶発的で単発的だったこれら遠隔地域間の接触は、この頃から持続的な交流へと変わった。各地の支配者がこの変化に対応し、人や物、宗教や思想の流れを制御しようとする試みのなかで、「国家」というものが新秩序として立ち現れ、洋の東西で存在感を増してくる。

ともすると抽象的になりがちなこうした議論だが、本書はいくつかの具体的な「物品」に注目することで、時代の特徴をあざやかに描き出している。そこに本書の最大の魅力がある。物品とは、①当時の世界を結びつけた銀、②国際貿易の花形だった生糸や人参、③国家形成に大きな役割を果たした鉄砲などの火器、④アメリカ大陸から持ち込まれたタバコやサツマイモなどの新作物である。

日本の石見銀山や南米のポトシ銀山で生産された莫大な銀はどこへ向かったのか。京都西陣の絹織物業は世界史のどのような流れのなかで発展したのか。鉄砲が日本に伝来した頃、海の向こう側では何が起きていたのか。読み手の問い方しだいで、本書からは、洋の東西、過去と現在を結ぶ様々な脈絡が見えてくる。私たちの、実は断片に過ぎなかった知識をつなぐ糸口が見えてくる。

本書は、東アジアの諸地域が交流と衝突を繰り返しながら、それぞれ性格の違う「近世」社会を形成していく姿を活写している。いま、誰もが「グローバル化」を口にするが、歴史的に見ればそれは近世に始まった。この長いプロセスの最初期に目を向けることで、現代世界を見る目が少し変わるかもしれない。当時と今と、何が似ていて何が違うのか。そんなことを考える気にさせてくれる本である。



新入生のみなさんへ

ご入学おめでとうございます。みなさんの大学生活が豊かなものとなるよう、図書館職員一同、心からお祈りしております。図書館は、正門からのメインストリートに面した4階建ての建物で、1階には学生課があります。まずは一度見に来てください♪

北の2階にはグループでの学習に大人気の個室やPCやソファが設置された大部屋があります。

西・南の2階には学習参考書や教科書などが並んでいます。

4月から再開します！ 学修相談カウンター

理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？

【場所】北館2階 ラーニングcommons
【時間】16:30~19:00の該当時間
※実施日時は、図書館ホームページやラーニングcommonsなど図書館の掲示でお知らせしますので、最新情報を確認してください。



どんどん
利用してください！

企画展示室は学生の皆さんでも利用できます。自分たちの作品の展示などに是非！

雑誌や小説などがあります。気軽にのぞいてみてね！



教えて？図書館のこと！

本は何冊まで借りられますか？

学部生は7冊2週間、院生は12冊4週間までです。

パソコンは使えますか？

北館2階ラーニングcommonsおよびグローバルスクエアに情報処理センター（IPC）のパソコンがあり、IPCと同じ条件で利用できます。また、館内には無線LANが整備されていますので持ち込みのノートPCでも利用できます。

もっと小説なども読みたい！

リクエスト企画などで娯楽小説なども受付しています。また、府内の公共図書館から無料で本を取り寄せて借りることができます。

電子書籍を読みたい！

TOEIC学習本や英語の小説など英語学習向け資料が中心ですが、約110タイトルほどあります。もちろん、自宅からでも読めます。

本以外にも借りられるものが？

あります。CDやDVDなどの視聴覚資料などがあります。また館内限定ですがノートPC、プロジェクター、スキャナの貸出も行っています。

飲食できるところってありますか？

館内では食べ物は禁止です。飲み物については**ふた付き容器（水筒やペットボトルなど）のみ**、一部のエリアで認めています。ただし、ゲートの外のリフレッシュラウンジには自動販売機があり飲食OKですので、ぜひ休憩時間などにご利用ください。



もっと知りたい！そんなあなたには… 図書館ツアーや講習会に参加しよう！

4月2日~13日には図書館ツアー、また本や論文の探し方、データベースの使い方など様々な講習会を実施します。是非ご参加ください。



企画展示室（北館 1 階）

【開催中】★会期延長になりました！

「たのしもう日本画展・にしのまお作品展」

2月8日（木）～4月9日（月）※最終日は14:00迄
「日本画技法」宮川典子（非常勤講師）
展示内容：日本画作品・木の飾台の作品・抽象画・葉のマチエール・人物クロッキーの作品など

たのしもう日本画展：構内を散策し、学内の植物をテーマに制作した作品などを展示しています。日本画の受講生は学年も年齢も様々で、初めて画材に触れた学生が大半です。
にしのまお作品展：卒業することになったので、2年間でかいた絵をすべて展示しています。

【開催します】

第2回絵本と人形展

～おはなしの世界へようこそ！～

4月16日（月）～4月28日（土）

※最終日は14:00迄

「うたとおはなしの会」第30回を記念して開催します。人形劇で登場した人形たちとえほんも展示します。



児童書コーナー（南館 1 階）

えほんのもり 幼児教育科主催

今月は「第30回うたとおはなしの会」を開催しますので、「学生による絵本のよみきかせ」はおやすみです。次回は、5月の予定です。お楽しみに！

第30回うたとおはなしの会

【日時】4月28日（土）10:00～11:00

【場所】附属図書館北館2階 研修セミナー室1

【定員】130名（事前申込要、先着順）



うたとおはなしの会は、今回も春を満喫できるうたやおはなしをたくさんご用意しています。大好評の人形劇は「おおかみと7ひきのこやぎ」を上演予定です。

★終了後、「絵本と人形展」企画で簡単手作りワークショップ「このほりを作ろう」を開催します。
＜講師：平野利江（人形作家）＞



図書館ツアーに参加しよう！

図書館全体をご案内します。これから本学の図書館を利用しようという方におすすめです。もちろん、在学生や、以前からいらっしゃる教職員の方々も、改めて図書館にどんな設備があるかを知る機会としてぜひお越しください。また、オプションでOPACによる本の検索と館内での本の探し方を10分で簡単にご紹介します。

実施日	曜日	時間
4月2日	月	12:00～12:20
4月3日	火	12:00～12:20
4月4日	水	12:00～12:20
4月5日	木	12:00～12:20
4月6日	金	12:00～12:20
4月10日	火	12:00～12:20
4月12日	木	12:00～12:20
4月13日	金	12:00～12:20

※オプションをつけると12:30までになります。

【集合場所】附属図書館カウンター

【申込方法】希望日時、所属、氏名を明記の上
library@kyokyo-u.ac.jp まで

（当日参加希望は、5分前までにカウンターへ！）

詳細は、ホームページやポスターで！



リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！リクエストや投票にどんどん参加してください！

4月の投票期間は

4月16日（月）～4月28日（土）

（リクエストは随時受付中です）

※結果によっては購入できないこともあります。

※学習研究目的のものは原則として購入します。

教育資料館 まなびの森ミュージアム

「今月の逸品」

※4月から、隔月での展示替えとなります。

「透明鍵盤メロディアン」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。展示をしていますので、ぜひ教育資料館へ来てくださいね！



詳しくは…教育資料館 まなびの森ミュージアム
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 徳永 俊太 (大学院連合教職実践研究科 准教授)

海外の教育を学ぶ視座

海外の教育からどのように学ぶのかということは、海外の教育を研究している者にとって常に問われることです。私は、教育政策や教育活動とその成果のみに着目するのではなく、その前提となっていた教育に関する困難や課題も合わせて学ぶことが、日本の教育を考えるうえで重要なことではないかと考えています。

「なぜイタリアの教育なのか」という質問はよくされます。確かに、イタリアの教育はうまくいっているように見えませんが、うまくいっていないからこそ、イタリアの人々は自分たちで子どもへの教育をよくしようと試みてきました。この草の根運動ともいえる様々な教育活動がイタリアの教育の魅力です。例えば、学校からのドロップアウト率の高さは、学校の外で学ぶ機会を多様に提供してきました。困難があるからこそ、そこに素晴らしい教育活動が生まれる可能性があります。そして、困難や課題と合わせて教育政策や教育活動を考えることで、その意図をより深く読み取ることができるようになるのです。

今回取り上げた1970年前後のイタリアは、社会情勢が不安定な時代でした。様々な教育改革も行われていましたが、明確な見通しがそこにあつたわけではありません。それゆえに、これからの社会をどう構築していくのかということについて、様々な人々が真剣な議論を交わしています。議論の中心となっているのは、学校と地域がどのように結びついていくべきなのかということでした。時代は違いますが、「学校が文化をつくることが重要」といった現代の日本につながる視点もあります。この論文を通して、これからの日本の教育について考えていただければ幸いです。

(今回紹介された論文)

1970年代のイタリアにおける学校の変革に関する考察
—雑誌『学校実践』の分析を通して—

徳永 俊太

京都教育大学紀要, 2017, No. 131, pp. 135-147

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 131 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>でもご覧ください。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2018年4月							2018年5月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
29	30						27	28	29	30	31		

4/12 前期授業開始

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版 OPAC

(QRコード)

<http://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.211(2018年4月号)

発行日:平成30年4月2日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION